

第 25 期第 1 回 自動運転と共創する未来社会検討小委員会 議事録

日時 令和 3 年 7 月 27 日 17 時～19 時

場所：オンライン開催

出席者（名簿順，敬称略）：大倉典子，小野悠，鎌田実，永井正夫，山川みやえ（途中参加），佐倉統，田中和哉（途中退席），中野公彦，今井猛嘉，加藤晋，栗谷川幸代，谷口綾子，中村彰宏，中村弘毅，ポンサトーン・ラクシンチャラーンサク

議題

1. 役員選出

委員長，副委員長 幹事 選出

副委員長は委員長任命により小野悠委員が就任

（準備会にて中野公彦委員を委員長に選出，藤井秀樹委員，中村弘毅が幹事に就任）

2. 学術フォーラムについて

学術会議主催の学術フォーラムを 12 月に開催予定（日程未定）

親委員会から「ELSI を踏まえた自動運転の社会実装」をテーマとしたフォーラムを提案予定（7 月 28 日に決議）

提案内容についての共有が行われた。後日資料展開

3. 話題提供

3.1 経済学から見た自動運転普及の論点：ネットワーク外部性の視点から（中村彰宏先生）

経済学の視点から見た自動運転普及の論点についての話題提供があった。大多数が同じものを使うことによって便益が向上するネットワーク外部性の視点から見た自動運転の普及や，自動運転車のプラットフォームビジネスの可能性について紹介された。また，自動運転車のような機械に対してより完全性を求める心理や教育によって合理的な要求に近づく可能性について議論された。

3.2 自動運転の社会的受容（谷口綾子先生）

自動運転の社会的受容についての話題提供があった。まず，自動運転に関する新聞報道の変遷について，初出の 1989 年から現在に至るまでの記事数数の推移，内容から見た社会における自動運転の位置づけについての紹介があった。次に自動運転実証実験の NIMBY 問題，社会全体としての賛否意識と自身に近い領域における賛否意識，それらの日独における違いについて紹介があった。さらに，高度経済成長期の交通事故を取り扱った番組の分析から，日本人の遵法精神についての問題提起と，自動運転車が普及するにあたって直面する可能性のある問題について議論された。

4. その他

今後小委員会は1か月から1か月半ごとに開催予定（後日日程調整）